

2000. 4. 1 第14号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町20 電話(027)362-2585
発行責任者 斎藤 民
印刷所 ほその印刷

わたしたちの同窓生

《101周年》

会員数 28,910名

平成12年4月1日 現在



同窓会報

椎の樹

未来につないだ百周年

祝 同窓生による記念演奏会



ご挨拶

同窓会長 斎藤 民

同窓会員の皆様記念すべき二千年という年をご健勝で迎える事とお喜び申し上げます。昨年は母校高女の創立百周年を祝し、数々の記念事業を皆様の絶大なご協力のもと盛大に挙行出来ましてまことに有難う存じました。

足掛け三年をかけた記念誌「朝夕まどに」も大好評で増刷に増刷を重ねました。その上、嬉しい事に上毛新聞社より上毛出版文化賞の栄誉を受け表彰されました。

5月16日群馬音楽センターで催された演奏会、昼の部(邦楽・夜の部(洋楽)共に満員の聴衆に感動していただき大盛況でございました。引き続き5月21日から26日の一週間シテイギャラリー全館を借りきっての同窓会展(書道・絵画・工芸・写真・華道・茶道の呈茶)も同窓生の素晴らしい活躍振りに来館された皆様大感激でございました。

6月13日ビューホテルで同窓会総会並びに同窓会としての百周年記念式典、続いて祝賀会を挙行いたしました。

長年心にかかっておりました旧校舎跡地(市文化センター)の八十周年記念に建てました「群馬県女学校発祥の地」という小さな碑を永久保存出来ます様になりました。この度整備いたしました。この他例年行っております

第19回 上毛出版文化賞
記念誌部門受賞 平成十一年十二月二十一日

朝夕まどに

【詳しくは3面に掲載】

同窓会の皆様、日頃から母校へ変わらぬご支援を賜り衷心よりお礼申し上げます。母校は、平成十一年五月一日、めでたく創立百周年を迎えることができました。好天に恵まれ、大勢のご来賓のもと、荘厳なうちにも盛大な記念式典を挙行することができました。これもひとえに、同窓会員の皆様のご理解ご協力のお陰であり、重ねてお礼申し上げます。



校長 大木 隆明

二百周年に向けて出発を

三年後には同窓会自身の百周年を迎えます。3月1日新入会員をむかえ新しい風を受け入れ益々充実した輝かしい会として歩いてまいります。何卒皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

さて、同窓会の皆様によって編纂されました、百周年記念誌「朝夕まどに」が、この度、上毛新聞社から出版文化賞の栄に輝き、過日、表彰式・祝賀会に私もお招きをいただきました。本当におめでとうございます。拙い推薦文をしたためた者として、また、母校の校長としてこの上ない喜びであり、心からお祝い申し上げます。

私は昨年四月、本校に赴任し、これを機会に「九十年史」をひもといてみました。それによると、現在に至るまでの百年は正に激動の世紀でした。わけでも、国家の命運を賭けた戦中においては、勤労動員などにより、学業もままならない状況を余儀なくされ、また、戦後の時代においても、混乱の影響を避けることはできなかつたと随所に記されております。

ところで、記念式典の式辞の中でも触れましたが、実は本校は、百周年に当たり、いわゆる箱物としては、図書館の増改築、記念碑の建立のみで、質素なものといたしました。ともすれば、百年に一度のことだからと、大事業を計画するのが通例の今日、平成不況の折り、関係各位に経済的な負担をおかけしたくないという前任校長の英断に、私も賛同いたしました。どうぞご理解をいただきましたと思います。

今年本校にとって、過ぎ去った百年を回顧する年であるとともに、創立二百年に向けた旅立ちの年、言うなれば、伝統の継承と発展を誓う年でもあります。

同窓会員の皆様には、今後とも母校への一層のご理解・ご協力をお願いし、併せて、会員の皆様のご健勝と同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。

創立百周年 記念式典・総会・祝賀会

〔平成11年6月13日(日)ビューホテルにて〕



↑ 祝賀会

記念式典・総会

アトラクション テノール独唱 角田和弘氏



↑ イングリッシュホルンとピアノのためのアリオソ



↑ 長唄舞踊「元禄花見踊り」



↑ 仕舞「采女」

5月16日(日)

群馬音楽センターは
高女一色

↓ チェンバロの伴奏でソプラノ独唱「夢」



↑ ソプラノ独唱
「この道」



↓ 箏曲舞踊「八千代獅子」



箏曲「花」↓



↑ ショパン・「ワルツ変イ長調 op.34-1」

↓ 笙「織女」



← 長唄舞踊「近江のお兼」



同窓生のパワーに感嘆いたします。邦楽、洋楽を楽しくみさせて頂きました(高9) 百年祭にめぐり会えた幸を感謝致します(女36) 同窓生として出演させて頂き有難く存じました(高20) 高女の卒業生であることを誇りに思います。合唱団の歌声はまだ余韻が残っております(女44) 歴史の重さとはこういうものですね。今更ながら伝統の素晴らしさを実感しています(高3) -交流室ノートより-



↑ 合同演奏・校歌 満場心ひとつに……



↑ ソプラノ独唱
「セレナータ」



5月21日(金) 5月26日(水) 高崎シテ イギヤラリーにて全館「同窓会展」



会場は時間の流れが一瞬止まり、また過去から未来へと静かに流れ出す…



6部門合同のテープカットでオープン!



出品者の年齢は97歳から25歳まで。市外県外からも多くの力作が寄せられました(書道)。Mさんの、葉っぱに全卒業生の名が書き込まれた作品は大評判でした(絵画)。母校が百周年、私は古稀・今出さねばいつ出すのかと思って出品しとても幸せです(工芸)。高女校章の焼印を押した薯蕷(じょうよ)饅頭が好評で多勢の方がお茶を楽しんで下さいました(茶道)。-交歓会での発言より-



← 出品者交歓会・コアホールにて



百周年行事に
参加できると
とても感激です

百周年記念
演奏会・同窓会展

百周年記念誌『朝夕まどに』

第19回上毛出版文化賞受賞!

平成11年12月21日、斎藤会長他記念誌関係者10名が、上毛新聞社上毛ホールにおける上毛賞贈呈式に列席しました。上毛賞は、出版文化・社会・

芸術・音楽・文学・スポーツ等に優れた業績をあげた方や団体、スポーツ振興に貢献された方を対象として選出されるものです。『朝夕まどに』は、一八九九年の開校以来、明治から平成に至る四つの時代を生きた高女生達の青春の軌跡が、様々なエピソードや思い出と共に凝縮され、又生の声で綴られたドキュメンタリーです。高女生の百年史としても興味深く、次代を担う後輩達にとっても良き指針となり、美しい錦の帯を、連続と織り成して下さることを願ってやみません。



選考経過に、「記念誌のかたさを脱し、楽しく編集した点が評価された。」とありますが、これもひ

『朝夕まどに』を 読んで

中野敏宗(元校長)
今は亡き名同窓会長神保充子氏は「私が一年のとき前橋市立が県立となり、本校名に高崎の二字が入りました。その際の校長先生の校名が変わっても県下一古い学校の誇りはもち続けるようにとの教えは今も忘れません。」と語っていました。この度の記念誌を読み、まずこの言葉が思い出され、明治から平成まで各期の卒業生が綴る生の言葉の集録は一般校史にはない迫力をもって伝統の重みを実感させ

ます。これからの生徒にも永く読ませたい。特に戦時中きびしい苦難を強いられた卒業生達の寄稿は、今の自由と平和に恵まれた生徒達に是非読んで欲しいと思います。

佃 和朋(元校長)

『朝夕まどに』を読んだの印象は、まさに「寶石箱」を開いた時の輝きに溢れた感動でいっぱいでした。学校とは別に同窓会の皆様の手になる創立百年記念誌発行も素晴らしいことですが、二十世紀を貫く高女魂と学校像の変遷が一大スペクタクルとなり、高女栄光の足跡が手に取るように窺えることも驚きでした。新しい

る時、懐かしさ嬉しさは一層のものでございます。御発展の程お祈り申し上げます。『朝夕まどに』に胸があつくになりました。

大川悦子(高20回)

刊行委員として編集・校正に携わり、元原稿を最初に下読みする事の心の高揚は快感でした。明治から戦中にかけての卒業生の凛とした気風に畏敬の念を抱き、ベビーブーマー以降には高女生らしい理屈っぽさと同感、そして若い世代の卒業生には爽やかな感動を覚えました。

ささやかなこだわりとしては、各頁最上部の期別の文字と校章の書体や大きさ、その下のアミ罫の中、見出しのグラデーション、挿し絵や写真の%等です。上毛の立見さんが度重なる変更にも拘わらず根気よく面倒を見て下さりました。誤字脱字、特にご芳名には細心の注意を払ったつもりですが見落としがございましたらお詫び申し上げます。

斎藤 信子(高20回)

い校歌が制定されるまでの長い間、「金剛石の歌」が歌われたことや、斎藤会長さんの恩師の方の玉稿、行き届いた編集企画など、全編を通し伝統と風格に満ちた古き良きものの中に、新しい高女の未来像が新鮮なタッチで描写されているのが印象的でした。

山田 君子(高29回)

先日御送付いただいた『朝夕まどに』には、感慨無量でした。小さな顔の卒業写真に、友人の顔を見出し涙しました。

矢島 かつ(高32回)

同窓会記念誌『朝夕まどに』を、なつかしく楽しく読ませて頂いております。百周年の祝賀会に出席出来ればと思っております。同窓会役員の皆様ありがとうございます。

関田 照子(高36回)

創立百周年おめでとうございます。離れて暮らす者にとりまして、同窓会報等に接す

同窓会だより

高女創立百周年記念 歌舞伎座観劇旅行

富澤 晶子(高24回)



10月17日に母校創立百周年を記念して、100名の同窓生はバス2台で歌舞伎座へと出発しました。昼の部の演目は、芸術祭参加公演で、まさに百周年記念にふさわしいものでした。

スポーツ交流

ゴルフOG会

どんぐり会

村田喜代子(高45回)

創立百周年おめでとうございませう。色々のイベントを味わわせて頂き、その話題に花を咲かせながら私達も六月四日、ローズベICCで、コンペを行いました。唯学校にゴルフ部が無いので生徒と交流試合が出来ず残念でしたが現在約百名近い会員を擁し年齢差も広くなり、同窓生と在校生が一諸にラウンドをしている様な錯覚をおぼえました。この会の発展は会員の絶大な協力があればこそ感謝いたします。

バレー部OG会

角田智恵子(高39回)

幕間には、まさに幕の内弁当をおいしくいただきました。二幕目は「茶壺」。今回大変お世話になった左園次さんが花道から登場すると、同窓生の席からひととき大きな拍手がわきおこりました。軽妙なかけあい、一問おくれの踊りの動きがなんとも楽しい舞台でした。

三幕目は「妹背山婦女庭訓吉野川」。なんとこれも玉三郎の美しさ、芝翫、幸四郎、染五郎という豪華なメンバーで、これを歌舞伎という本格的な舞台でした。悲恋の物語に、そっと目頭をおさえる方の姿も見られました。

歌舞伎座の感動を胸に銀座第一ホテル15階の「トップ・オブ・ギンザ」で中華バイキングを楽しみました。

日本の伝統文化のすばらしさを再認識し、おいしいお食事と楽しい語りをするのができて、とても心豊かな秋の一日でした。



たしてあります。



同窓会名簿

桑原芳美(高16回)

調査・広告・賛助金と皆様から沢山のご協力を頂き発行できました。浅黄色の明るい表紙は百年を迎えた母校のすがすがしさを、そしてその中に百周年記念行事、同窓会展に出品された福島節子さんの作品(校歌)を配置しました。グラフィックは記念行事の数々のスナップ写真を載せました。

今回の特徴の索引は旧姓、改姓どちらからも探すことができるようになっていて、大変便利です。改訂にあたり、誤りがないように配慮致したつもりでしたが、いくつかの点で訂正する箇所がありました。ことをお詫び致します。購入された方には訂正表が送付されます。ご覧下さい。

購入をご希望の方は事務局までご連絡ください。

バスケット部OG会

綱島千栄子(高19回)

母校創立百周年を記念してバスケット部OG会は、平成11年5月2日、母校体育館に

同窓会 総会開催の お知らせ



平成12年度行事予定

5/1(月)	総会
9/1(金)	旅行申込日
10/22(日) ~23(日)	親睦研修旅行
2/4(日)	新年会(ビューホテル)
3/1(木)	同窓会入会式
4/1(日)	会報15号発行

- ※会議
- (1) 常任委員会
 - (2) 別期幹事役員会
 - (3) 旅行企画委員会
 - (4) 会報編集委員会
 - (5) 合唱団運営委員会
 - (6) その他

*旅行、新年会へご参加ください。

- ◇ 転入された先生(敬称略)
- 教頭 小野 博文 (安中)
 - 事務部長 萩原 勲 (太田)
 - 総務部長 宮崎 弘一 (桐生)
 - 国語 生方塚 美香 (万場)
 - 国語 戸塚 秋彦 (前西)
 - 化学 佐藤 賢一 (前女)
 - 生物学 森川 貴男 (伊東)
 - 英語 岡田 恵子 (富東)
 - 書道

こちよい春風に心ときめくころとなりました。百周年行事では皆さまに大変ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。今年度の総会は下記のとおりです。お誘い合わせ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

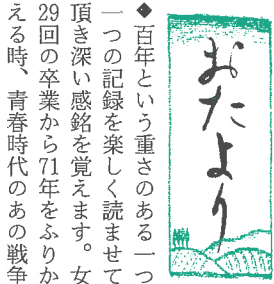
日時 5月1日(月)12時~
場所 母校・椎樹館 和室

母校の近況

1クラス40名、学年8クラス、全校で960名の規模となりました。11年度は総体女子の部で総合優勝しました。学習や部活動に力一杯取り組んでいます。進路状況：進学者289名、就職2名、浪人その他33名。国立大入学者120名、公立大25名、私立大148名、短大5名、専修各種7名。

● 教職員人事異動

- ◇ 退職された先生
- 書道 大川 清子先生 (兼務されてました)
 - ◇ 転出された先生(敬称略)
 - 教頭 上野 臣吾 (高崎東校長)
 - 事務部長 外山 嘉男 (高崎)
 - 国語 高野 英之 (伊勢崎工定時制教頭)
 - 国語 小林 功 (下仁田)
 - 理科 岡崎 太郎 (渋女)
 - 理科 鳥山 広一 (沼田)
 - 数学 大野 俊彦 (高崎)
 - 英語 木村 高己 (高崎)



◆ 百年という重さのある一つの記録を楽しく読ませて頂く深い感謝を覚えます。29回の卒業から71年をふりかえる時、青春時代のあの戦争

◆ 母校創立百周年おめでとうございます。卒業後50年が夢のように過ぎ去りました。転勤族の相棒と二人で、娘の嫁ぎ先、倉敷へ終生の住居を。毎年送っていた「椎の樹」で、「故郷は遠くにありに想うもの」と平和な日々がすぎっております。

岡山県倉敷市
岡村清江(女48回)

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)



出版祝賀会・新年会開催

中野敏子(高23回) 祝賀会は、斎藤民会長のご挨拶の後、刊行委員代表の笹本幸子さん(女44回)より記念誌完成までのエピソードを混じえての経過報告があり、元校長の佃先生、清水教育振興会長、元教諭の持田章先生、上毛新聞社出版局の見立様よりご祝辞を頂き、受賞の喜びに溢れた会となりました。

続いての新年会は、斎藤民会長のご挨拶、大木校長先生、上野教頭先生よりのご祝辞、外山事務部長の乾杯で、二つの会の祝宴が始まりました。

アトラクションは、山崎真由美さん(高23回)が会場一杯に響くソプラノで「はる」「紫陽花」他を、華やかなドレスで熱唱。またこの日の為に猛練習してこられた同窓会合唱団の方

第48回 京浜地区同窓会開催

創立百周年の記念すべき年に当たる第48回京浜地区同窓会は7月4日に催されました。梅雨のさなか高崎、また遠くから足を運ばれた方々にお天気も味方をしてくれました。今回は百八十三名の同窓生を乗せての豪華客船ヴァンティアン号で東京湾クルーズしながらの宴です。元NHKアナウンサー古藤田さんの司会をかわきりに、斎藤民会長、恩師熊倉先生、大木校長、林支部長よりご祝辞を賜わり、桑原同窓会理事の乾杯

高24回幹事代表 松本万里

々々、小川久美子さん(高18回)の指揮、指方容子さん(高20回)のピアノ伴奏で「野葡萄」他二曲を奏で、ハーモニイで披露し、宴に華を添えて下さいました。

事務局からのお知らせ、高23回から高24回への当番期の引き継ぎが行なわれ、校歌の合唱と共に閉会となりました。



椎樹祭参加

吉村晴子(高5回) 第15回椎樹祭は、6月5日6日にわたり「百花繚乱」さなる飛躍へのテーマのもと、在校生の活発な発表がくりひろげられました。

同窓会では、母校百周年の佳き年をお祝いして、今回は書道・絵画・工芸・写真・華道の各分野の精鋭作品を揃え、記念の展示といたしました。

隔年の椎樹祭参加は、頼もしき若きパワーにふれる時であり、創作に励む同窓生とのよきかけ橋となっております。

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)

旅行

平成12年度 親睦旅行のお知らせ

~きっと何かに出合える 秋の信濃路散策~

1. 期日 平成12年10月22日(日)~23日(月)
2. 場所 長野・上諏訪・上田方面
3. 費用 35,000円
4. 定員 45人(バス1台)
5. 行程 22日(日) 高崎駅東口(8:00) = 長野市内散策(東山魁夷館他) = 上諏訪温泉・ホテル浜の湯(16:30) 23日(月) ホテル = 諏訪北澤美術館 = 別所温泉(昼食) = 信濃デッサン館・無言館 = 高崎駅東口(18:30)
6. 申し込み 平成12年9月1日(金) 10時~15時 母校 椎樹館 TEL027(362)2585



◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)

◆ 高女百年、これからも私達の心の故郷として、益々の御発展をお祈りしております。父(小林康男)が長く、高女で教鞭をとってましたので私のアルバムには、四、五歳の頃、末広町校舎の職員室や屋上で写した写真が残っています。その学校に入学し、久保田さんが記念誌に書かれてるように、ユニークで楽しい一冊を送りました。母校百年の今年、私の長女も高校に入りましたが、地下鉄に乗って男女共学の高校に通う娘の姿に、改めて昔の自分を思い出しております。

名古屋市昭和区
西宮由美(高28回)